

犬・猫を飼うときは

ペットを飼うときや飼い主のいない猫に餌をやるときは、責任を持って最後まで面倒をみましょう。

飼主の方へ

飼い犬



ふん尿の始末は必ず行いましょう

犬を散歩させるときはビニール袋などを持っていき、屋外でふんをした場合は、必ず持ち帰りましょう。

犬の放し飼いはやめましょう

犬を屋外に連れて行くときは必ずリードをつけ、犬の行動を制御できる人が持ちましょう。

普段はおとなしい犬でも、リードを放してしまうと逃げて迷子になったり、何かに驚いたときに人に危害を与えることがあります。

吠え声が迷惑にならないよう注意しましょう

犬が頻繁に吠える場合、吠える理由を見極めて原因から対処することが大切です。しつけの本を読んだり、訓練士などに相談して対処しましょう。

飼い猫



室内で飼いましょう

猫は室内で飼い、交通事故、猫同士のけんかによるケガ、感染症などの危険から守りましょう。

猫のふん尿・ゴミ荒らし・鳴き声など、周囲の人への被害をなくすことは飼い主の責務です。

猫を自由に放して周辺に迷惑をかけることは、猫にとっても不幸なことになります。

不妊・去勢手術をして飼いましょう

「手術するのはかわいそう」などの理由で不妊・去勢手術をしないしていると、1匹の猫から1年に7～8匹の子猫が生まれることもあります。

責任を持って世話ができる数を考えて飼いましょう。手術をすることで、性ホルモンに起因する病気の予防やストレスの軽減のほか、オス同士の争いやマーキング行為の減少にもなります。

連絡先を書いた首輪や迷子札、マイクロチップをつけましょう



飼い犬・飼い猫だと分かるように、飼い主の身元表示をしましょう。

飼い主の名前や連絡先、犬の鑑札番号などが分かれば、迷子になっても飼い主のところへ帰してあげられる可能性が高まります。

室内飼いでも、開いた戸口から脱走したり、突然の災害などで驚いて逃げってしまうこともありますので、身元表示をつけましょう。

飼い主のいない猫に餌をやっている方へ

猫をかわいそうに思って餌をやる気持ち自体は悪いことではありませんが、対策なしに餌やりをして猫が屋外に集まると、猫同士のけんかや伝染病の感染がおこったり、猫のふん尿が近所の方の迷惑になることがあります。

また、餌をもらって栄養状態のよくなった猫が繁殖すると、猫の増加問題にもつながります。

飼えない猫に安易な気持ちで餌をやるのはやめましょう。

それでも餌をやりたいときは、周辺地域にお住まいの人とよく話し合いのうえ理解を得て行き、食べ残しやふん尿を適切に管理すること、不妊・去勢手術を受けさせることが大切です。

犬や猫に関するご相談は龍野動物愛護センターまで ☎0791-63-5146